

新春講演会・賀詞交歓会 （株）紅中 2月23日開催

平成30年「紅中新春講演会・賀詞交歓会」が2月23日（金）午後2時から中央区本町のシテイプラザで催され、場内を埋め尽くした多数の来場者が9分、黒田ク口講師の「考え方がその人の人生を決める」をテーマにした絶妙な話術と内容に翻弄され続けた。



中村社長

冒頭、中村社長が謝意とともに「紅中は総合空間創造企業として皆様のお役に立ちたい」と述べて、次のように語った。まず熊本産材のS・D・J・A・S製材品の製造販売の強化。さらにモノづくり分野や店舗等の非住宅分野への注力。紅中発祥の地である京都二条にショールーム機能を有した「見せる営業所」を開設。小さな改善を積み重ね、工事に関しても施工力を徐々につけてゆく。その一環の職方不足対策として4月、高槻に「ハウスリフォーム・育成学院」を開校する。何よりも大切な情報に関して

は「係わる方に伝わる情報発信」に磨きをかける。

続いて営業企画ゼネラルマネージャーの上林信幸取締役が「今後の営業方針」を説明した。前期67期は若干の売上減だったが70周年を見据えた3年計画によって70期は売上267億円、経常利益4億6千万円を目標とする。自然素材で人気上々のS・D材は月産60mから200mに増産し、関連会社を含めたモノづくり分野にも力を入れる。年2000回以上の講演をこなす黒田氏は「相手が変わるより自分が変わる」「考えではなく考え方を考える。方とは見方、立場のこと」「他人の喜びを優先する」「気の持ち方を変えたら簡単に変わる」「目標を決めたら生き方が決まる。死に方を決めたら生き方が決まる」「間を繋ぐものが縁」「因縁生起」「意識の意は心」等々の言葉を残した。

多能工職人 育成

高槻で4月開校 紅中

大阪浪速区の（株）紅中（社長・中村晃輔氏）が4月から開校する「ハウスリフォーム・育成学院・大阪校」の施設見学会が3月6日と7日、高

ハウスリフォーム 育成学院

槻市上牧の校舎内で開催された。説明に当たったのは信本正幸氏（育成学院学長）。人口減や高齢化に加えて空き家の激増。時代の流れは新築からリフォームに向かっていると誰もが思い、国策も中古住宅（既存住宅）市場に軸足を移しつつある。しかし、期待するほどリフォーム市場は伸びていない。その最大の原因が「儲からない」。リフォーム工事の半分以上が10万円～50万円、手間ひまがかかる割には儲からないのが実情だ。生き残る道は「分離発注型」ではなく「自社施工型」。従来はキッチン・トイレ・床・壁・天井などのリフォーム工事は夫々の職種の職人が施工していた。これでは儲からない。せいぜい粗利は25%位だという。自社施工にすれば粗

利額は倍増する、が問題は職人。そのためには自社で職人を抱えることが必須だ。4月から開校する「ハウスリフォーム・育成学院」は長崎県が発祥の地。一つの職種・技術だけではなく複数の職種・技術を身につけた「多能工職人（マルチ・クラフター）」を育てる学校だ。リフォーム市場の30%以上が水廻り、次いで内装が20%。従って習得スキルは「便器取付」「洗面台取付」「システムキッチン組立」「クロス張替」「タイルフロア施工」等の実技が中心、加えて営業面の「接客対応・基本積算」まで勉強するという。

育成学院の1クールは12日間・80時間（講座・実施研修・修了試験）教科書付き。受講料は54万円、1クール6名募集。4月2日から始まり8月10日まで9クールの授業。長崎では2年で130名が卒業した。申込は☎（072-669-2116）にて。

新春講演会・賀詞交歓会

（株）紅中 2月23日開催

平成30年「紅中新春講演会・賀詞交歓会」が2月23日（金）午後2時から中央区本町のシテイプラザで催され、場内を埋め尽くした多数の来場者が9分、黒田クワ講師の「考え方がその人の人生を決める」をテーマにした絶妙な話術と内容に翻弄され続けた。



中村社長

冒頭、中村社長が謝意とともに「紅中は総合空間創造企業として皆様のお役に立ちたい」と述べて、次のように語った。まず熊本産材のSSD・JAS製品の製造販売の強化。さらにモノづくり分野や店舗等の非住宅分野への注力。紅中発祥の地である京都二条にショールーム機能を有した「見せる営業所」を開設。小さな改善を積み重ね、工事にしても施工力を徐々につけてゆく。その一環の職方不足対策として4月、高槻に「ハウスリフォーム・育成学院」を開校する。何よりも大切な情報に関して

感 雑 泉

泉

（株）四ツ橋 福本桂三

▼私は「泉」という言葉が好きだ。一字では「心」「和」なども好きだが、「心」は魂のイメージ、人間を感じ、「和」は道徳的な響きがあるのに対して「泉」には心の故郷を感じる。ロマンティックな響きがある。

▼泉といえば思い浮かぶ場所が二箇所。武蔵野と吹田市にある「垂水神社」である。私は武蔵野という言葉の響きが好きだ。国立市の大学に受験にいったとき、道端にこんこんと湧き出る泉の、湧き出ては崩れいく水の先端の水滴が、太陽の光を受けて光っていた。それが国木田独歩の「武蔵野」のイメージと心の中で重なったからであろう。春の野を感じた。

▼詩人窪田空穂は幼年期を松本平野で過ごした。その通学路の情景を詠んだ「湧きいづる 泉の水の盛り上がり くづるとすれや なほ盛りあがる」も泉を端的に表現していて好きな歌である。春の野である。

▼垂水神社は大阪の千里丘陵の末端にある。神社の所在は知らなくても、志貴皇子の「石ばしる垂水の上のさ藤の 萌え出づる 春になりけるかも」（万葉集）を知っている人は多い。大岡信氏の「折々のうた」の春の歌のトップに載られている。万葉集の中で額田王と天武天皇の相聞歌「君が袖振る」と並んで私の好きな歌である。

▼岳父がジュバイツァーの言葉として我が妻に「伏流水は泉になってこそ旅人の喉を潤す」と教えた。すなわち「心でいくら思っても言葉や行動に表さなければ、心が相手に伝わらないよ」という。これも「泉」という言葉が好きになった一因かもしれない。

▼言葉や漢字には人それぞれの「心の文字、言葉」がある。私には「泉」と並んでなぜか「椅子」にロマンを感じる。一体何故だろうか。また、考察をする。

（株）四ツ橋 福本桂三 TEL 072-624-7540

は「係わる方に伝わる情報発信」に磨きをかける。

続いて営業企画ゼネラルマネージャーの上林信幸取締役が「今後の営業方針」を説明した。前期67期は若干の売上減だったが70周年を見据えた3年計画によって70期は売上267億円、経常利益4億6千万円を目標とする。自然素材で人気上々のSSD材は月産60mから200mに増産し、関連会社を含めたモノづくり分野にも力を入れる。

年200回以上の講演をこなす黒田氏は「相手が変わるより自分が変わる」「考えでなく考え方を考える。方とは見方、立場のこと」「他人の喜びを優先する」「気の持ち方を変えたら簡単に変わる」「目標を決めたら生き方が決まる。死に方を決めたら生き方が決まる」「一問を繋ぐものが縁」「因縁生起」「意識の意は心」等々の言葉を残した。

多能工職人 育成

高槻で4月開校 紅中

大阪浪速区の（株）紅中（社長・中村晃輔氏）が4月から開校する「ハウスリフォーム・育成学院」が3月6日と7日、高槻市で開校式を行った。

ハウスリフォーム 育成学院

機市上牧の校舎内で開催された。説明に当たったのは信本正幸氏（育成学院学長）。

リフォーム市場は伸びていない。その最大の原因が「儲からない」。リフォーム工事の半分以上が10万円～50万円、手間ひまがかかる割には儲けられないのが実情だ。

生き残る道は「分離発注型」ではなく「自社施工型」。従来のキッチン・トイレ・床・壁・天井などのリフォーム工事は夫々の職種の職人が施工していた。これでは儲けからない。せいぜい粗利は25%位だという。自社施工にすれば粗

金に補助金漬けなどのマイナスイメージも漂うが、新しい事業への呼び水・誘い水としての効用もある。知識として知っておれば営業にも役立つはずだ」と述べ、続く黒田社長も「黙っていたらもらえない。補助金は申請しても審査にパスしないと受け取れない」「補助金は要件を満たせば

助金の種類は1万種類以上あり、年々額は減少しているという。大きく分けて事業系と雇用系の2種類。補助金と助成金の違いは「補助金は申請しても審査にパスしないと受け取れない」「助成金は要件を満たせば

利用は倍増する、が問題は職人。そのためには自社で職人を抱えることが必須だ。4月から開校する「ハウスリフォーム・育成学院」は長崎県が発祥の地。一つの職種・技術だけではなく複数の職種・技術を身につけた「多能工職人（マルチ・クラフター）」を育てる学校だ。

大阪西区の協和産業（社長・織田光二氏）が主宰する三協会（会長・松山能久氏）第9回研修会が3月7日（木）午後3時より西区の大阪木材材買会館で開かれた。テーマは「使える補助金・助成金」。

講師は辻・本郷ビジネスコンサルタントの若狭清史専務。補助金が見つければ幸いです」と挨拶した。

原則誰でも受け取れる「一点にある。従って補助金は事業系が多く管轄は内閣府・農水省・経産省・国交省・環境省文科省と多岐に及ぶ。一方の「助成金」は厚労省が圧倒的。木材業界の中小企業には事業系より雇用系の方が利用頻度は高そう。特に「採用・雇用」「人材育成」「職場環境の改善」「子育てなどの両立支援」「健康診断」等に役立つ助成金は経営者なら知っておくべし。「大手ゼネコンの中には雇用に関する助成金制度を活用して数千万円の助成金を受けている」と話す若狭講師は「財源は皆さんの税金です。是非、利用して企業の繁栄に役立ててください」と述べ、講演を結んだ。



織田社長

ない。こちらからノックすること。講演の中で使える補助金・助成金が見つければ幸いです」と挨拶した。

原長ファクトリー支援協会 TEL 072-624-7540